

野生獣通報システムの警報発信装置と中継機 (右下)  
=塩尻市内で

# 通報システムで獣害減らせ

## 無線ネットで出没情報提供

猿やイノシシなどによる農作物被害対策として、塩尻市振興公社と市内企業が共同開発している、インターネットを活用した野生獣通報システムが四日、

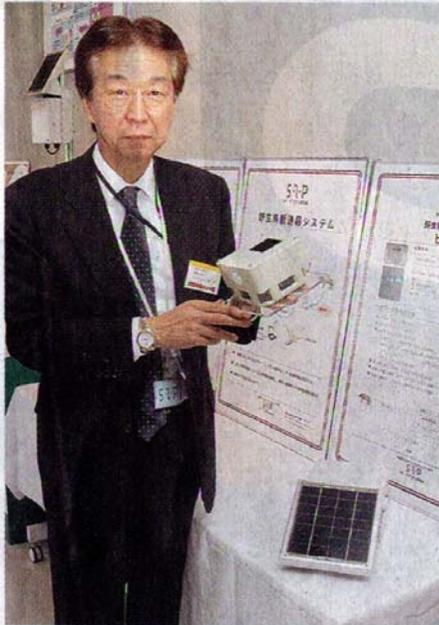
市内で開かれた中山間地サミットで発表された。パソコンや携帯電話に出没情報が入り、追い払いなどの対策が可能で、来年度中の実用化を目指す。

システムは、赤外線センサーを備えた警報発信装置を畑などに置き、野生獣が近づくとブザー音と発光ダイオ

ードの点灯で威嚇。野生獣の感知情報は中継機を経てインターネットに接続、農家のパソコンや携帯電話に位置情報とともに通報する。

塩尻市は二〇〇六年度、「アドホック」と呼ばれる無線ネットワークを構築。市内に中継機網が整備され、今回の開発はこれを活用した。市振興公社によ

ると、アドホック以外の有線テレビ光ファイバーネットワークなどでも中継できる。通報システムは今年



来年度中に実用化へ

六月、市内檜川地区で実証実験。センサーの感知範囲が十五坪のため、多数の設置が必要などなどが分かった。農家からは、野生獣を識別できるカメラの搭載を望む声もあり、改良型を来春までに開発するという。

市振興公社の林茂コーディネーターは「一定の出没情報が集まれば、猿などは行動予測も可能になる。システムは行政施策として自治体が整備するのが現実的ではないか」と話した。

中山間地サミットは情報通信技術をテーマに総務省の外郭団体の全国地域情報化推進協会が主催。各地の自治体や企業関係者ら百人が参加した。五日は塩尻市内を現地視察する。(福沢幸光)